

私立大学研究ブランディング事業 平成29年度の進捗状況

学校法人番号	291002	学校法人名	帝塚山学園		
大学名	帝塚山大学				
事業名	「帝塚山プラットフォーム」の構築による学際的「奈良学」研究の推進				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	3855人
参画組織	人文科学研究科・心理科学研究科・文学部・経済学部・経営学部・法学部・心理学部・現代生活学部				
事業概要	<p>本事業では、奈良県全体を研究のフィールドとする本学独自の「奈良まるごとキャンパス®」構想にもとづき、地域の拠点として「帝塚山プラットフォーム」を構築し、学際的な「奈良学」研究を推進する。「奈良学」は、奈良を研究対象とし、日本や世界における奈良の位置づけを明らかにするものである。産官学との連携による「奈良学」研究を通して地域の活性化や創生に取り組むことで、地域の拠点大学としてのブランドを確立する。</p>				
①事業目的	<p>本事業の目的は、奈良県全体を研究のフィールドとする本学独自の「奈良まるごとキャンパス®」構想にもとづき「帝塚山プラットフォーム」を構築して学際的な「奈良学」研究を推進することで、奈良に存在する様々な文化資産や観光資源を再発見し、その成果を広く社会に発信していく取り組みを本学と地域が協働して行うことにより、地域の活性化と創生に結び付けることである。さらに、本取り組みを通じて、奈良県に立地し、地域の振興や情報発信の拠点としての重責を担う帝塚山大学の役割や存在をより明確なものとし、地域における独自性を本学の特色として打ち出すことで、本学のブランドの確立に結び付けていくことをめざす。</p>				
②平成29年度の実施目標及び実施計画	研究活動	<p>【目標】従来の研究活動を整理し、「文化財・祭事」、「食文化・伝統産業」、「地域・コミュニティ」の3つの領域について、「実証」に関わる研究および「実践・発信」に関わる取り組みに着手。</p> <p>【指標】従来の研究活動の実績、個々の研究課題で設定した指標</p>			<p style="text-align: center;">平成29年度</p> <p>「奈良学研究推進委員会」を中心とした「帝塚山プラットフォーム」事業の推進体制の構築 外部評価委員会による年次評価</p>
	ブランディング戦略	<p>【目標】研究活動において整理された、これまでの「奈良学」の研究成果を広く公開することで、新たな「奈良学」の再定義に向けた端緒とし、今後のブランディング戦略の舵取りを行う。</p> <p>【指標】各取り組みの実績、個々の取り組みで設定した指標</p>			
	研究活動	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財・祭事 <ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子関連遺跡：試掘調査・確認調査にむけて、実地踏査 ・正倉院宝物研究：内蒙古博物院と連携、研究の方向性・計画確定 ・奈良仏像史研究：ガラス乾板の整理と目録作成に着手 ○食文化・伝統産業 <ul style="list-style-type: none"> ・大和野菜の食物学的研究：1品種についての食物学的分析 ・奈良晒研究：多面的調査研究の方向性と計画の確定 ○地域・コミュニティ <ul style="list-style-type: none"> ・五條市歴史学的研究：関連資料の収集、現地調査の実施 ・地域の生活文化研究：民俗資料の収集、聞き取り調査の実施 ○奈良学研究を生かした地域活性化人材育成プログラムの策定 ○文化財デザイン商品、大和野菜商品、奈良晒の商品開発に着手 ○産業遺産である五新鉄道等を活用した観光イベント計画策定 ○奈良地域の生活史について小中学校や地域における教育活動実践 <p>【測定方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前に設定した評価指標にもとづき、奈良学研究推進委員会が事後評価を行い、効果を検証し、次の研究計画へ反映させる。 			
	ブランディング戦略	<ul style="list-style-type: none"> ○本事業の特設サイトを開設する。 ○「奈良学シンポジウム」を開催する。 ○本学所蔵の織機を活用した履修証明プログラムを開講する。 ○「実学パンフレット(事例集)」第1号を発行する。 ○学内のデジタルサイネージで「実学ニュース」を配信する。 ○SNSの運用に着手する。 <p>【測定方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前に設定した評価指標にもとづき、広報委員会により、事後評価による効果の検証を行い、次年度の取り組みへ反映させる。 			

<p>③平成29年度の事業 成果</p>	<p>【研究活動】 ○文化財・祭事 ＜聖徳太子関連遺跡＞ 斑鳩町・法隆寺の創建期(7世紀前半)の瓦生産地を特定するために遺跡踏査を実施した。踏査地点はかつて法隆寺創建時に使用した瓦と同じ型を用いて作られた瓦が発見された旧・北倭村山田(現在の生駒市高山)で、同地区において窯跡の場所を特定するために学生や地元の方々々と踏査を行い、遺物の散布状況を確認し、現地の現況を記録として保存するために空中写真および地上写真撮影を行った。 ＜正倉院宝物研究＞ 平成30年2月25日に内蒙古博物院の所長を招いて、奈良県立橿原考古学研究所と共催で「奈良学シンポジウム」(内蒙古考古学最新成果学術報告会)を開催し、4名の研究者が、それぞれの分野における学術報告を行った。内蒙古博物院所長の発表内容は、シルクロード文化圏に関わる壮大な内容で、海外での公表はこれが初めてのことであった。 ＜奈良仏像史研究＞ ガラス乾板のデジタルアーカイブ化に対応するための機器を整備して調査を開始した。今年度の成果としては、平成30年3月に報告書(概報)の第1冊として「永野鹿鳴荘ガラス乾板資料調査概報(1)」を刊行した。</p> <p>○食文化・伝統産業 ＜大和野菜の食物学的研究＞ 大和野菜の食物学的特性を明らかにするために食品の一次機能性として一般成分の測定を実施した。また、大和野菜の“大和真菜”“片平あかね”を取り入れた「殿様弁当」のレシピを考案し、新入生歓迎会「あかね祭」で販売するための試作品を作成した。 ＜奈良晒研究＞ 今年度は、本学が所蔵する大和機を使用した織物講座を開講し、奈良学研究を生かした地域活性化人材の育成に取り組んだ。また、受講生の制作した作品の展示会を開催し、学内外に広く公開した。</p> <p>○地域・コミュニティ ＜五條市歴史学的研究＞ 五條市と本研究プロジェクトに関する個別の覚書を締結し、NPO法人五新線再生推進会議理事長との打ち合わせを経て、現地にて五新線跡を踏査した後、五新線跡のドローン撮影を行った。これにより、五條市内に残る五新線跡をデジタル的に記録したことで、五新線の歴史的展開過程を平面地図のような二次元としてではなく、立体的にとらえるための基礎資料を得ることができた。 ＜地域の生活文化研究＞ 天理市福住町における大正から昭和にかけての生活史が描かれた風俗スケッチ画の検証のため、民俗調査を実施した。その成果は、帝塚山小学校において小学校3年生社会科「昔の人々の暮らし」授業教材として活用した。この授業の様子が奈良新聞、産経新聞に掲載されることで地域に周知される結果となり、平成30年度には奈良県立図書館での展示公開が実現した。</p> <p>【ブランディング戦略】 ○本事業の特設サイトを開設した。 ○「奈良学シンポジウム」を開催した。 ○本学所蔵の織機を活用した履修証明プログラムを開講し、7名が受講した。 ○「実学パンフレット(事例集)」を発行した。 ○学内のデジタルサイネージで「実学ニュース」を配信した。 ○SNSの運用についての準備を行った。</p>
<p>④平成29年度の自己 点検・評価及び外部 評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 事業開始初年度の本年度は、本事業を推進するため、奈良学研究推進室を設置し、推進員2名を配置する等、本事業の実施体制を整備した。研究課題として設定した7つの取り組みを実施し、その進捗状況は奈良学研究推進委員会で報告した。また、ブランディング戦略に関する各取り組みの実施状況については広報委員会で報告を行った。いずれの取り組みも概ね初期の目的は達成しており、次年度以降も設定した目標や指標を実現するため、事業全体のPDCAを回していくことを広報委員会および奈良学研究推進委員会で確認した。</p> <p>(外部評価) 3月に、平成29年度の外部評価委員会を開催し、3名の外部評価委員(奈良教育大学学長・奈良県明日香村村長・生駒市観光協会会長)から、それぞれの立場や視点からの評価を受けた。主な外部評価の内容については次のとおりであり、次年度の活動に活用することとした。 ・事業計画書に記載されたことは、アウトプットとして当然推進すべきであろうと考える。計画書に書かれている研究に対して、成果をあげられていることは評価できるが、その次に、その成果を踏まえて、何が生まれたか(アウトカム)が重要で、それについても整理してもらえたら尚良い結果に繋がると思う。 ・本事業が最終的にどこを目指しているのかをより明確にする必要があり、帝塚山大学の価値を示す指標が上がるというのが理想であると考えている。 ・地域の側から考えると、かなり事業展開されているというのは評価できるが、具体的な施策(例えば、地域の活性化)に繋がるかどうかということを考えておくべきであると思う。 ・事業を推進していくにあたり、学際的な組織づくりも整備するべきである。</p>
<p>⑤平成29年度の補助 金の使用状況</p>	<p>学際的「奈良学」推進のための研究機器購入費、事業統括・研究支援のための推進員人件費、研究出張・学術報告会等の国内旅費、ブランディング戦略に関するwebサイト構築、学術報告会の通訳派遣等の委託費、研究協力者等の報酬謝金、学術報告会の案内チラシ・研究成果報告集等の印刷製本費、学術報告会の広告掲出料、その他経費(通信費、諸会費、消耗品、雑費)等に使用した。</p>